

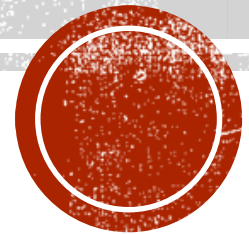
EAST ASIAN MODERNISM STUDIES PROJECT- WORKSHOP
AT KYUSHU UNIVERSITY

東アジアのオルタナティブ・モダニズムを
めぐって

ABOUT ALTERNATIVE MODERNISMS OF
THE EAST ASIA

佐野正人（東北大学）

Masato SANO (Tohoku University)



1、グローバル・モダニズムの展開

- 近年、モダニズム・スタディーズのグローバル化が進行している

⇒比較文学のグローバル化、「地球的比較文学」の提唱

G・スピヴァック『ある学問の死 惑星思考の比較文学へ』

フランコ・モレッティ『遠読 〈世界文学システム〉への挑戦』



1、グローバル・モダニズムの展開

- Douglas Mao and Rebecca L. Walkowitz 「The New Modernist Studies」

ダグラス・マオ、レベッカ・ウォルコウィッツ「新たなモダニズム・スタディーズ」

2008年、PMLA ((Modern Language Association of America) 123.3

モダニズム・スタディーズの「トランスナショナル的転回」を方向付け、大きな影響力を持った



1、グローバル・モダニズムの展開

- 1、モダニズムの拡張
 - 時間的、空間的、垂直的なモダニズムの拡張
- 2、トランスナショナル的転回
 - オルターナティブな伝統の包含
 - トランスナショナルな循環や翻訳
 - 帝国主義に対する反植民地主義的なプロジェクト
- 3、大衆的説得の時代におけるメディア
 - メディア的革新と聴衆の変化の中でのモダニズム



1、グローバル・モダニズムの展開

- 地球的モダニズム（Global modernism）
オルタナティブモダニズム（Alternative modernism）
- 各地域に固有の文脈によって成立したローカルなモダニズムのあり方自体に注目
- それらの相互交通によってグローバルなモダニズムが成立
- 帝国主義に対するポストコロニアルなプロジェクトとしての性格



2、東アジアのオルタナティブ・モダニズム

- ローカルなモダニズム → ラテンアメリカのモダニズム
シュールレアリズム → グアテマラのアストゥリアス、キューバ
のカルペンティエルが批判的に継承
→ 「魔術的リアリズム」小説（ガルシア・マルケスなど）
- モダニズムのローカル化



2、東アジアのオルタナティブ・モダニズム

- 東アジアにもローカルなモダニズムが成立したのではないか？



2、東アジアのオルタナティブ・モダニズム

- 1930年代の東アジア → 活発な地域内交流、文学的交流
- 日本のモダニズムが朝鮮、台湾でも直接に受容される（日本語書籍の流通）
- 朝鮮のモダニズム文学（九人会のメンバー、李箱、鄭芝溶、金起林、朴泰遠など）
 - 日本留学、日本のモダニズムを直接に受容（鄭芝溶、金起林など）
 - 現地の日本語メディアを通しての受容（李箱）



2、東アジアのオルタナティブ・モダニズム

- 上海の穆時英、劉呐鷗、施蛰存らの「現代」派文学
→ 日本の新感覚派文学を受容



2、東アジアのオルタナティブ・モダニズム

- 横光利一らの新感覚派文学を中心とした東アジアの同時代的ネットワークの存在

→ 「東アジア的オルタナティブ・モダニズム」の存在を示唆している



2、東アジアのオルタナティブ・モダニズム

- 1930年代のアート、大衆文化での東アジア的モダニズム

崔承喜のモダンバレエ

李香蘭の日中韓をまたいだ大衆的人気

日朝合作映画（「春香伝」—村山友義、「望楼の決死隊」—今井正、崔寅奎）

→ 日本、朝鮮、満州をまたいだメディア的ネットワークの形成



3、戦後東アジアのオルタナティブ・モダニズム

- 戦後（解放後）の東アジア
 - 国民国家が各地域で成立したが、モダニズム的ネットワークは機能し続ける（？）
- 主に大衆文化の面で「東アジア的モダニズム」のネットワークは機能する
 - ⇔ 文学（ハイカルチャー）は国民国家的アイデンティティの影響



3、戦後東アジアのオルタナティブ・モダニズム

- 大衆文化での国境を超えるネットワーク的現象
特に日韓国交回復（1965年）、日中国交回復（1972年）の時期に顕著
- 韓国 『氷点』の流行（1965年）、
「ブルーライトヨコハマ」の流行（1969年）
- 中国 1979年 改革開放に伴って日本映画週間
『君よ憤怒の河を渉れ』の流行、
高倉健、中野良子が国民的スターに



3、戦後東アジアのオルタナティブ・モダニズム

- 1980年代以降 ゲーム、マンガ、アニメの汎アジア的流通、消費
- 2000年代以降 国境を越えた大衆文化の流通
 韓流、華流、日流
 K-POP, J-POP, C-POP



3、戦後東アジアのオルタナティブ・モダニズム

- 1965年～ 香港映画 日本映画からの人材を導入
(井上梅次監督、中平康監督、中本正カメラマン)
 - 日本の時代劇、アクション映画のモダニズムが香港映画に導入される
 - 1970年代のカンフー映画の世界的流行 アジア的モダニズム
- ※ 中平康監督『泥だらけの純情』 韓国で『裸足の青春』としてリメイク



4、東アジアの比較映画研究

- 東アジアのグローバル・モダニズムの研究 → 映画研究が先行している
- 金素栄 『トランス：アジア映像文化』、現実文化研究、2006
(김소영 편저 『트랜스 ; 아시아 영상문화』)



4、東アジアの比較映画研究

- 第1章 トランスアジア映像文化
 - 第2章 (トランス) アジアシネマ
 - 第3章 (東) アジア ‘ナショナル’ シネマの新たなトピック
-
- 日本(吉見俊哉、岩淵功一、吉本光宏、齊藤綾子)、韓国、中国、台湾、シンガポール、オーストラリア、インド、アメリカ



4、東アジアの比較映画研究

- 特に2000年代の大衆文化現象を中心に「トランスアジア映画」を概念化
- 文学研究やグローバル・モダニズム研究にも大きな示唆



ご清聴ありがとうございました

